

Nara National Museum

奈良国立博物館 だより

第 **53** 号

平成17年 4・5・6月



左 / 銅鐸（近畿式） 雨乞山（和歌山県みなべ町）出土 東京国立博物館所蔵
右 / 銅鐸（三遠式） 伊奈（愛知県小坂井町）出土 東京国立博物館所蔵

特別展

曙光の時代

—ドイツで開催した日本考古展—

3月23日（水）～5月8日（日）
東・西新館

特別陳列

宿院仏師

—戦国時代の奈良仏師—

5月28日（土）～7月10日（日）
東新館

平常展

仏教美術の名品

本館・西新館

中国古代青銅器
本館

曙光の時代

—ドイツで開催した日本考古展—

The Dawning Age :
A Japanese Archaeology Exhibition on Return from Germany

- ◆会場：奈良国立博物館 東・西新館
- ◆主催：奈良国立博物館、文化庁、
独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所、国際交流基金
- ◆後援：朝日新聞社 ◆協力：小学館

日本は世界的にも考古学の調査や研究が盛んな国です。その大きな成果をもとに、日本文化のはじまりをヨーロッパに紹介する展覧会が実現しました。Zeit der Morgenröte（曙光の時代）と題されたこの展覧会は、シュリーマンを生んだ考古学伝統国ドイツで開催され、昨年七月から本年一月まで、マンハイムとベルリンの二都市を巡回いたしました。この展覧会を日本国内の皆様にも観覧頂けるよう、当館で帰国展を開催する運びとなりました。

青森県三内丸山遺跡や佐賀県吉野ヶ里遺跡、奈良県飛鳥池遺跡など、近年大きな話題をよんだ遺跡をはじめとして、旧石器時代から奈良時代までの各時代を代表する重要遺跡から集めた1500点以上の出土品（国宝3件・重要文化財35件を含む）が一堂に展示されます。それぞれの時代相を映す石器や土器、金属器に加え、農具や漁撈具、漆工品、青銅・ガラス製造の道具、あるいは遠方からの交易品、祈りと祭りの道具など、さまざまな資料を通して古代人の生活や文化、そこに生きた知恵を復元して行きます。火焰型土器や遮光器土偶、銅鐸、三角縁神獸鏡など教科書にも登場した古代の名品が勢揃いしており、これらを通覧するだけでも歴史を本物で学び、楽しむことができます。また、弥生時代に戦争があったことを物語る「銅鏃が突き刺さった人骨」や、興福寺中金堂の地下から発掘された金塊を含む鎮壇具など、話題性のある出土品も数多く展示されます。

是非この機会に、考古学ファンはもとより、歴史を学び始めたお子様やご家族の皆様にもご観覧頂き、日本文化の曙に想いを馳せて頂ければ幸いです。



彫器ほか〔後期旧石器時代〕
白滝遺跡群（北海道白滝村）
北海道埋蔵文化財センター所蔵



◎手形付土製品・足形付土製品〔縄文時代後期〕
大石平遺跡（青森県六ヶ所村）
青森県埋蔵文化財調査センター所蔵



遮光器土偶〔縄文時代晩期〕
星の宮遺跡（秋田県仙北町）仙北町教育委員会所蔵



◎馬甲・馬冑〔古墳時代〕
大谷古墳（和歌山市）
文化庁所蔵

※市町村名は平成17年2月1日現在



◎三角縁神獸鏡〔古墳時代〕
雪野山古墳（滋賀県八日市市）
八日市市教育委員会所蔵

特別陳列

宿院仏師

——戦国時代の奈良仏師——

◆平成17年5月28日(土)～7月10日(日)

◆奈良国立博物館 東新館

戦国時代(十六世紀)に奈良で活躍した宿院仏師は、はじめ「木寄番匠」として沙弥仙算(海龍王寺)の造仏を手伝いました。次に「助作」として実清(東大寺)のもとで仏像製作を担当します。その後、仏師と名乗って自立し、宿院町(奈良市内)の工房を仏師屋と名付けました。この間、棟梁は源四郎、源次および源三郎の三代が交替し、現在、70件余りの仏像が知られています。本陳列ではそのうちの主要な仏像30点を選び、宿院仏師の消長をたどります。宿院仏師の仏像は素地のままの仕上げであり、その平明で清潔感のある造形感覚は他地域の同時代の彫刻と比べて孤立しており、古代・中世以来の南都の伝統を強く感じさせます。また健康的で明快な表現は近世の職人意識の先駆けのようなくとも感じられます。当館で40年ぶりの室町彫刻のミニ企画展です。中世末期の象徴的存在でもある宿院仏師の事績を顕彰し、奈良の中世文化の特色のひとつを紹介します。



十一面観音立像
永正四年(一五〇七) 奈良市 東大寺



薬師如来坐像(像内銘文)
弘治三年(一五五七)
御所市・石川垣内(薬師堂)



虚空蔵菩薩坐像
天文十九年(一五五〇)
河内長野市・金剛寺

神奈川県立金沢文庫開館75周年記念/国立博物館巡回展

祈りの美 — 奈良国立博物館の名宝 —

会場◆神奈川県立金沢文庫(横浜市金沢区金沢町一四二)
会期◆平成17年4月21日(木)～6月5日(日)

金沢文庫は、鎌倉幕府執権北条義時の孫、北条(金沢)実時が創設した武家文庫で、実時を初代とする金沢氏四代の時期に多数の和漢書が収集されました。豊富な蔵書と写本の良質さで知られましたが、残念ながら時運とともに多くの書物が庫外へ流出してしまいました。現在の金沢文庫は、昭和五年に再興されたもので、金沢氏の菩提寺である称名寺に伝来した古文書・古典籍を中心に古美術品なども収蔵し、鎌倉・横浜に関する文化財もあわせて展示しています。

本年、金沢文庫が再興されて75年目を迎えたのを機に、当館と金沢文庫の収蔵する文化財の交換展を開催するはこびとなりました。標記のとおり、金沢文庫を会場に当館所蔵の名品を紹介する展覧会を開催します。

【主な出陳品】●辟邪絵、

- 牛皮華鬘、●金光明最勝王経、●薬師如来坐像、●大仏頂曼荼羅、●刺繍三昧耶幡、行基墓誌、十二神将立像(金沢太寧寺旧蔵)

なお、当館を会場に金沢文庫の優品を紹介する展覧会は、十二月三日～一月十五日に開催予定です。



●辟邪絵(天刑星)

展 示 評

く外からみる奈良博く

特別陳列『談山神社の名宝』展での感激

東京大学大学院人文社会系研究科教授 佐藤 信



観覧風景

奈良国立博物館の「大和の神々と美術 談山神社の名宝」展は、急遽開催が決まった台風被災復興支援の「厳島神社国宝展」と今年に入って会期が約三週間重なることとなり、この間の入館者は両方の展示が楽しめてとても得をした気分になったはずである。相乗効果で、普段の冬季の特別陳列よりも多くの人々が、厳島神社の国宝とともに多武峰談山神社に伝わった多くの文化財を一望になったことと推測する。私も、公開講座でうかがった折りに、両展をいつもよりはゆつくり見学する至福の時を過ごすことができた。「厳島神社国宝展」の平家納経や舞楽面・古神宝類に改めて目を見張ったのはもちろんだが、意外にもという失礼なのだが、「談山神社の名宝」展のポリウムと質の高さには、大変感激したのだった。「厳島神社国宝展」に引けを取らない、素晴らしい展示品の数々であった。

私のこのような感激の背景を考えると、まず第一に、これまでに多武峰に伝わったかくも質的・量的に豊かな文化財を、一堂に見学する機会が無かったということがある。高校の修学旅行以来何度か多武峰談山神社にはうかがっているのだが、これだけの規模の宝物展示を拝観した記憶はない。

第二には、多武峰の歴史的な重要性を改めて確認し得たことである。多武峰が大和国の代表的な宗教的権威の一つであったことは承知していたが、具体的に多様なモノによってそれを実感することができたのである。多武峰は、始祖鎌足の墓所として藤原氏との関係の深さを背景としていた。天変の予兆として、藤原鎌足墓のある御破裂山が鳴動したり藤原鎌足木像に亀裂が入るといった、「鳴動」や「御破裂」によって、政治的な影響力を保持したことは、展示品からも良くうかがうことができた。中世に、大和を代表する権威で

あった興福寺・春日神社とともに藤原氏摂関家との関係を保った多武峰ではあるが、法相宗の興福寺とは異なり、多武峰は天台宗となつたので、両者の関係は微妙なところがあつたようだ。しかし、百万石の豊臣秀長が^{とよとみひでなが}大和郡山の城下町に移転を求めるほど宗教的権威を高く維持し続けたことを、改めて良く知ることができた。

第三には、神仏混交を象徴する多武峰の文化財の多様性に驚かされたことである。祭神である鎌足像などの神宝と仏像・写経などの仏教的遺品との共存に、深く結びついていた神仏混交の歴史的な姿を良く見ることができた。

具体的な展示品の中では、ちょうど藤原鎌足の伝記を研究中であるという立場から、藤原鎌足像の彫刻や絵画をこれだけたくさん見ることができたのは、有難かった。所領を描いた大和の荘園差図も、かつて荘園故地の現地を調査したことを思い出して懐かしかった。また、多武峰の歴史と文化の伝統を示す文書群や能面も、興味深かった。

もう少し、上に見たような多武峰の歴史の特徴を理解させてくれるストーリー性が展示で強調されていても良かったのではないかとは思ったが、とにかく数多くの多様な文化財に感激し続けたのであつた。それらが広い展示室にゆつたりと配置されていたことも、落ち着いて見学することができた理由となつたように思う。

ただし、展示されていた絵画作品の中に、素人目にも保存状態が良好とはいえない状況のものがみられたのは、痛ましかった。是非ともこれらの文化財が良い状態で保存され、これからもより広く公開されるようになることを望みたい。



●天台大僧像(龍樹) 一乗寺



●木造十一面観音立像 当館



●土製仮面(ママチ遺跡) 文化庁

特別展

曙光の時代

―ドイッで開催した日本考古展―
3月23日～5月8日 東西新館

※左の一覧には、全展示品のうち、代表的な遺跡・遺物について記した。

I 旧石器時代

白滝遺跡群(北海道白滝市)尖頭器・石刃接合資料ほか17点

II 縄文時代

花見山遺跡(神奈川県横浜)深鉢形土器ほか18点、◎上野原遺跡(鹿児島県国分市)深鉢形土器・土偶ほか26点、◎三内丸山遺跡(青森市)釣針・銚・大型板状土偶ほか43点、◎里浜貝塚(宮城県鳴瀬町)骨角製漁撈具・骨角/貝製装身具ほか28点、◎是川遺跡(青森県八戸市)赤漆塗土器・赤漆塗耳飾ほか17点、星の宮遺跡(秋田県仙北町)遮光器土偶、◎馬高遺跡(新潟県長岡市)火焔型土器3点、◎大石平遺跡(青森県六ヶ所村)手形・足形付土製品3点、境A遺跡(富山県朝日町)ヒスイ玉ほか10点、カリバ3遺跡(北海道恵庭市)赤漆塗櫛ほか13点

III 弥生時代

限 西小田遺跡(福岡県筑紫野市)弥生人頭骨、曲り田遺跡(福岡県三丈町)磨製石斧ほか23点、板付遺跡(福岡市)壺・鉢、甕ほか4点、◎吉野ヶ里遺跡(佐賀県)有柄銅剣、巴形銅器、銅型・ガラス製管玉ほか91点、唐古・鍵遺跡(田原市)壺・鉢、挟入柱状片刃石斧・絵画土器(家と鹿)・銅鐸鑄型ほか55点、◎皇后峰(福岡県春日市)銅矛鑄型、雨乞山(和歌山県みなべ町)銅鐸、瓜生堂遺跡2号方形周溝墓(大阪府東大阪市)壺・水差ほか8点、青谷上寺地遺跡(鳥取市)木製容器・銅鍔嵌入人骨ほか69点、◎吉武高木遺跡(福岡市)ヒスイ製勾玉ほか77点、◎東奈良遺跡(大阪府茨木市)銅鐸鑄型ほか7点、◎荒神谷遺跡(鳥根県斐川町)銅矛・銅鐸、雀

居遺跡(福岡市)木製短甲・木製机・木製農具ほか15点

IV 古墳時代

有年原・田中遺跡(兵庫県赤穂市)特殊器台ほか5点、纏向遺跡(桜井市)畿内土器ほか16点、◎黒塚古墳(天理市)三角縁神獸鏡ほか6点、◎大和天神山古墳(天理市)画文帯神獸鏡ほか14点、◎東大寺山古墳(天理市)花形飾環頭大刀・家形把頭ほか53点、◎新開1号墳(滋賀県栗東市)変形神獸画像鏡・短甲・衝角付冑・肩庇付冑・鉄剣・鏡板付轡ほか57点、◎宮山古墳(兵庫県姫路市)垂飾付耳飾・象嵌環頭大刀ほか17点、◎大谷古墳(和歌山市)馬冑・馬甲・f字形鏡板付轡ほか50点、◎長原高廻り古墳(大阪市)船形埴輪・家形埴輪ほか4点、◎綿貫観音山古墳(群馬県高崎市)女子人物埴輪ほか3点、◎寿命王塚古墳(福岡県桂川町)琥珀製瓊玉・剣菱形杏葉・f字形鏡板付轡ほか57点、◎上総金鈴塚古墳(千葉県木更津市)環頭大刀・花形鏡板付轡・心葉形杏葉・葉形飾金具・銅鏡ほか109点

V 飛鳥・奈良時代

藤原宮跡(橿原市)鬼瓦ほか3点、押熊瓦窯(奈良市)鬼瓦、平城宮跡(奈良市)軒丸瓦・圈脚円面硯・木製櫛・下駄ほか28点、平城京跡(奈良市)戲画皿(猿の絵)ほか43点、多賀城跡(宮城県多賀城市)漆紙文書、◎滝台遺跡(千葉県八街市)銅印「山邊郡印」、飛鳥池遺跡(明日香村)富本銭・仏像鑄型・ガラス玉鑄型ほか98点、石神遺跡(明日香村)無文銀銭、◎西大寺宝ヶ丘(奈良市)開基勝寶(金錢)8点、◎那智山経塚(和歌山県那智勝浦町)金銅仏、山田寺跡(桜井市)埴仏・銅板五尊像14点、◎繩生庵寺(三重県朝日町)ガラス製舍利容器ほか3点、◎東大寺金堂(奈良市)基壇出土鎮壇具、◎興福寺中金堂(奈良市)基壇出土鎮壇具、◎道業墓(天理市)須恵器骨蔵器・銀製墓誌

特別陳列

宿院仏師―戦国時代の奈良仏師―

5月28日～7月10日 東新館

十一面観音立像(東大寺)、地藏菩薩立像(西大寺)、十一面観音立像(東大寺上之坊)、地藏菩薩立像(正暦寺)、十一面観音立像(天理市・西念寺)、十一面観音立像(平群町・個人)、十一面観音立像(奈良市・北村町(観音堂))、地藏菩薩立像(葛城市・柿本(影現寺))、如来坐像、阿弥陀如来坐像(以上、大和郡山市・丹後庄町(松本寺))、十一面観音立像(田原本町・法貴寺(千万院))、釈迦如来坐像(天理市・南三条町(釈迦堂))、地藏菩薩立像(東大寺)、地藏菩薩立像(元興寺)、地藏菩薩立像、地藏菩薩坐像(以上、奈良市・西光院)、虚空藏菩薩坐像(河内長野市・金剛寺)、大日如来坐像(橿原市・東竹田(大日堂))、祐全上人坐像(奈良市・西方寺)、薬師如来坐像(御所市・石川垣内(薬師堂))、十一面観音及両脇侍立像(広陵町・大福寺)、阿弥陀如来坐像(奈良市・十輪寺)、不空絹索観音立像(橿原市・大久保町(大窪寺))、地藏菩薩立像(薬師寺)、薬師如来坐像(川上村・徳蔵寺)、釈迦如来坐像(伝香寺)ほか

平常展
仏教美術の名品
4月～6月 本館

【彫刻】

〈奈良時代の仏像〉

第1室

◎脱活乾漆・木造梵天立像、◎脱活乾漆・木造伝教脱活菩薩立像(以上、秋篠寺)、◎銅造法華説相図(長谷寺)、◎銅造誕生釈迦仏立像及び灌仏盤、◎二月堂本尊光背(以上、東大寺)、銅造誕生釈迦仏立像、銅造誕生釈迦仏立像(以上、当館)、◎銅造誕生釈迦仏立像(悟真寺)、◎銅

造誕生釈迦仏立像(正眼寺)、銅造誕生釈迦仏立像(個人)、◎脱活乾漆十大弟子立像のうち舍利弗・目犍連像、◎脱活乾漆八部衆立像のうち緊那羅像(以上、興福寺)、◎木造西大門勅額(東大寺)、◎木造十一面観音立像(薬師寺)、◎木心乾漆伝義淵僧正坐像(岡寺)、◎木心乾漆阿闍如来坐像(西大寺)

〈平安・鎌倉時代の仏像〉

第2室

◎木造阿弥陀如来立像、◎木造重源上人坐像(以上、浄土寺)、木造泰山府君坐像、木造閻魔王坐像(以上、東大寺)、◎木造薬師如来立像(元興寺)、◎木造千手観音立像(園城寺)、◎木造十一面観音立像(勝林寺)、◎木造十一面観音立像(地福寺)

特集展示

第3室

◎法隆寺伝法堂・乾漆造の諸尊像、◎脱活乾漆阿弥陀三尊像(中の間)、◎脱活乾漆阿弥陀三尊像(西の間)、◎木心乾漆阿弥陀三尊像(東の間)(以上、法隆寺)

〈ガンダーラ・中国・朝鮮半島の彫刻〉

第4・6室

ガンダーラ 石造菩薩立像、石造仏伝図浮彫(以上、当館)、ストゥツコ如来頭部、ストゥツコ如来坐像、ストゥツコ菩薩立像、ストゥツコアトラス像、石造貴婦人群像(以上、個人)

中国 銅造仏三尊飾板、銅造菩薩坐像、銅造力士立像、◎木造諸尊仏像(以上、個人)、銅造二仏並坐像、方形独尊坐像、方形阿弥陀三尊像、方形独尊像、小型独尊像(以上、当館)、多宝塔尊像、石造如来頭部・雲崗、石造如来頭部・天竜山、石造仏五尊像、石造仏立像、石造仏浄土像、◎石造三尊仏像(以上、個人)、◎石造三尊仏像、◎石造十一面観音立像(以上、当館)

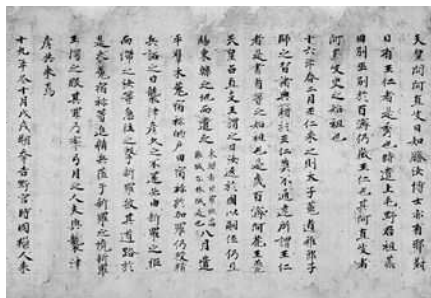
朝鮮半島 銅造如来立像(光明寺)、銅造如来立像(当館)



伝北九州出土経筒 当館



●華璽 中尊寺金色院



●日本書紀卷第十残卷 当館

〔檀像〕

第7室

◎木造十一面観音立像(当館)◎木造弥勒仏坐像(東大寺)◎木造維摩居士坐像(石山寺)◎木造十一面観音立像(海住山寺)

〔伎楽面〕

第8室

◎治道・崑崙・力士・太孤父・醉胡王・醉胡徒・醉胡徒(以上、東大寺)

〔小金銅仏〕

第8室

◎銅造観音菩薩立像(観心寺)◎銅造観音菩薩立像(法隆寺)◎銅造菩薩半跏像(東大寺)◎銅造菩薩立像(金剛寺)◎銅造菩薩立像(法起寺)◎銅造菩薩半跏像(神野寺)

〔平安時代後期の仏像〕

第9室

◎木造不動明王坐像(園城寺)◎木造大日如来坐像(西城戸町)◎木造釈迦如来坐像(法隆寺)◎木造菩薩半跏像(木造不動明王立像(以上、個人))◎木造増長天立像(称名寺)◎木造増長天立像(法明寺)◎木造大日如来坐像(元興寺町)◎木造阿弥陀如来坐像(木造阿弥陀如来坐像(木造阿弥陀如来坐像(金剛寺)

〔鎌倉時代の仏像〕

第10室

◎木造弥勒菩薩立像(林小路町)◎木造地藏菩薩立像(東大寺)◎木造十一面観音坐像(現光寺)◎木造不動明王坐像(正寿院)

〔神仏習合の彫像〕

第11室

◎木造八幡三神坐像(三幡(葉師寺))◎銅造蔵王権現立像(二幡(大峯山寺))◎木造蔵王権現立像(木造童子形坐像、木造大將軍神坐像(以上、当館)◎木造大將軍神坐像(大將軍八神社)◎木造男神坐像(観音寺)

〔平安・鎌倉時代の金銅仏〕

第12室

◎銅造阿弥陀三尊像(善光寺式)(善光寺)◎銅造蔵王権現立像(個人)◎銅造軍荼利明王立像、銅造釈迦如来坐像(以

上、園城寺)◎銅造不動明王立像、銅造大威徳明王坐像(以上、当館)

〔神將形の彫像〕

第13室

◎木造十二神將立像(東大寺)

特別出陳

国宝 薬師如来立像 唐招提寺金堂

本館 第1室

平常展

中国古代青銅器(坂本コレクション)

本館 第14室 第15室

平常展

仏教美術の名品

5月21日～7月10日 西新館

〔絵画〕

5/21～6/12

◎地藏十王像(永源寺)◎閻魔王庁図(長泉寺)◎二河白道図(当館)◎釈迦阿弥陀発遣来迎図(雲辺寺)◎観経十六観變相図(阿弥陀寺)◎当麻曼荼羅(西教寺)◎阿弥陀二十五菩薩来迎図(松尾寺)◎阿弥陀四十九化仏来迎図(光明寺)◎九品来迎図(上品上生・下品中生)(瀧上寺)◎華嚴五十五所給、◎華嚴海会善知識曼荼羅(以上、東大寺)◎十二天像(伊舎那天・日天)(西大寺)◎十一面観音像(金心寺)◎一字金輪曼荼羅(南法華寺)◎十卷抄「天部」、◎不動明王八大童子像、六字経曼荼羅(以上、当館)◎終南山曼荼羅(松尾寺)◎北斗九星像(宝蔵寺)◎役行者像(福住区)◎春日宮曼荼羅(南市町自治会)◎子島荒神像◎辟邪絵(梅檀乾闥婆・鍾馗)(以上、当館)

〔書跡〕

5/21～6/12

特集展示「写経」◎大般若経「長屋王願経」見性庵、◎紫紙金字金光明最勝王経、紺紙銀字華嚴経「二月堂焼経」、諸菩薩求仏本業経「五月一日経」(以上、

当館)◎別訳維阿含経卷第十「五月十一日経」(宝蔵寺)◎賢愚経卷第十五「大聖武」(東大寺)◎中阿含経卷第九「善光朱印経」(当館)◎十誦律卷第五十二「称徳天皇願経」(石山寺)◎大毘盧遮那成仏神変加持持経「吉備由利願経」(西大寺)◎大般若経「魚養経」(葉師寺)◎法華経卷第三(当館)◎一字蓮台法華経(龍興寺)◎紺紙金銀交書大般若経卷第四百六十「中尊寺経」◎紺紙金字大智度論卷第七十四「神護寺経」◎大威徳陀羅尼経卷第八「法隆寺二切経」◎大般若経卷第五百十七「東大寺八幡経」◎大毘盧遮那成仏神変加持持経卷第四「消息経」(以上、当館)◎法華経「長谷寺」◎毘尼母経卷第五「足利尊氏願経」◎版本大般若経卷第三百六十五以上、当館)◎維摩詰所説経「近衛家熙筆」◎法華経「常子内親王筆」(以上、談山神社)

〔工芸〕

5/21～6/12

石製舍利容器(個人)◎金龜舍利塔(長谷寺)◎獅子座火焰宝珠形舍利容器(当館)◎舍利厨子(不退寺)◎密観宝珠嵌装舍利厨子(般若寺)◎宝珠台(海住山寺)◎経帙、百万塔(以上、当館)◎孔雀鍔金経箱(浄土寺)◎紺紙金字一切経附属経箱(中尊寺)◎牛皮華鬘、◎金銅種子華鬘、牛皮華鬘、刺繡釈迦・阿弥陀二尊図(以上、当館)◎刺繡阿弥陀三尊来迎図(個人)◎孔雀文簪(長谷寺)◎孔雀文簪◎金銅鑿口◎梵鐘「陳太建七年銘」(以上、当館)◎彩絵鼓胴◎黒漆塗四枚居木鞍(以上、手向山八幡宮)◎手箱及び内容品「古神宝類の内」(熊野速玉大社)◎男神像懸仏(石上神宮)◎熊野十二所権現懸仏(当館)◎線刻千手観音鏡像、蔵王権現懸仏◎錫杖頭(以上、個人)◎金銅装笈、松尾寺、金銅装笈◎入峰斧(以上、当館)◎錫杖頭(長谷寺)◎金銅幡頭◎金銅華鬘(以上、中尊寺金色院)

〔絵画〕

6/14～7/10

◎天台高僧像「龍樹」(一乗寺)◎真言八祖像「一行・金剛智・空海」(神護寺)◎善導大師像「知恩寺」◎親鸞上人像◎明空上人像(以上、当館)◎法燈国師像(興国寺)◎夢窓国師像(妙智院)◎安東門惠像◎地獄草紙◎十王像「陸仲淵筆」◎阿弥陀浄土図(以上、当館)◎地藏十王像(龍満院)◎阿弥陀来迎図(宝蔵寺)◎阿弥陀二十五菩薩来迎図(大蔵寺)◎十卷抄「仏頂等」◎一字金輪曼荼羅(以上、当館)◎法華曼荼羅(松尾寺)◎十二天像「地天」(西大寺)◎愛染明王像(宝山寺)◎愛染明王像(秋篠寺)◎愛染明王像、両頭愛染曼荼羅(以上、当館)◎不動明王・童子像(瑠璃寺)

〔書跡〕

6/14～7/10

特集展示「文書・記録・絵図」◎造仏所作物帳、写一切経所解案◎筑前国嶋郡川辺里大宝二年戸籍◎豊前国仲津郡丁里大宝二年戸籍◎弘福寺牒並大和国判(以上、当館)◎阿弥陀悔過料資財帳(東大寺)◎額安寺文書(額安寺)◎西大寺文書(西大寺)◎吉水院坊領紛失願文(吉水神社)◎明月記断簡、三寶絵断簡◎日本書紀卷第十残卷、◎東大寺開田図(以上、当館)◎周書卷第十九(大神神社)◎箸喰莊差図(談山神社)

〔工芸〕

6/14～7/10

牛皮華鬘(峰定寺)◎菊牡丹文彩色華鬘、金銅装説相箱(個人)◎金銅種子華鬘、信貴形水瓶、布薩水瓶、仙蓋形水瓶、王子形水瓶、閼伽桶、金銅燭台(以上、当館)◎銅三具足(聖衆来迎寺)◎銅香炉(個人)◎金銅柄香炉(高山寺)◎仏餉鉢(金剛峯寺)◎銅香水壺(個人)◎五獅子如意(東大寺)◎念珠箱(当麻寺)◎金銅五大明王五鉢鈴(天河神社)◎金銅四天王五鉢鈴(弥谷寺)◎金銅三昧耶五鉢鈴(金峯山寺)◎金銅独鉢鈴◎金銅三鉢鈴◎金銅宝珠鈴◎金銅五鉢杵(請

修復文化財
光学的調査の成果

パネル展示
国宝十一面観音像(当館蔵)
地下回廊

●国宝 ●重要文化財
以上すべての展示において、出陳作品を一部変更する場合があります。

（火葬墓）○山代忌寸真作墓誌、灰釉平瓶骨壺（奈良・壺阪寺奥院出土）（以上、当館）
（鳥取・智積寺出土）（当館）

（経塚）粉河経塚（和歌山）出土品、白浜経塚（和歌山）出土品、伝北九州出土経筒、銅板経（大分・長安寺出土）、青石経（愛媛・大日堂経塚出土）、瓦経（福岡・飯盛山経塚出土）（以上、当館）、瓦経（兵庫・楽音寺経塚出土（楽音寺）、泥塔経（鳥取・智積寺出土）（当館）

（古代の瓦埴）鳳凰文埴（南法華寺）、平城宮式鬼瓦（奈良・薬師寺出土）（京都国立博物館）、南都七大寺式鬼瓦（伝奈良・大安寺出土）（個人）、軒瓦・鬼瓦（奈良・山村廃寺出土）、軒瓦（奈良・東大寺出土）（以上、当館）など

（考古）5/21〜7/10

来様）（以上、個人）、金銅宝塔鈴、金銅五鈷鈴、金銅種子五鈷鈴、金銅独鈷杵、金銅三鈷杵、木製宝珠杵、金銅金剛盤、金銅四槩、金銅羯磨、金銅輪宝、金銅花瓶、金銅六器、金銅火舎（以上、当館）、孔雀文磬（長谷寺）、孔雀文磬、○金銅鑿口、鉦鼓（手向山八幡宮）、男神像懸仏（石上神宮）、線刻千手観音鏡像、蔵王権現懸仏（以上、個人）、○熊野十二所権現懸仏（当館）、○透彫華籠（神照寺）

●公開講座●

特別展「曙光の時代—ドイツで開催した日本考古展—」

- 4月 2日（土）「遺跡・遺物が語る日本列島の石器時代文化」
岡村道雄氏（奈良文化財研究所平城宮跡発掘調査部長）
4月16日（土）「銅鐸と弥生社会」
春成秀爾氏（国立歴史民俗博物館教授）
4月30日（土）「考古学からみた初期ヤマト王権の成立」
白石太一郎氏（奈良大学教授・大阪府立近つ飛鳥博物館館長）

特別陳列「宿院仏師—戦国時代の奈良仏師—」

- 6月 4日（土）「宿院仏師—戦国時代の奈良仏師—」
鈴木喜博（当館上席研究員）
6月18日（土）「宿院仏師の生きた時代—十六世紀の奈良—」
幡鎌一弘氏（天理大学おやさと研究所研究員）

※時間：13:30～ 会場：当館講堂 定員：200名
聴講無料（13:00より整理券配布）

●親と子の文化財教室「室町時代の歴史と美術」受講者募集●

- 【第1回】5月28日（土）「室町時代の奈良」 西山 厚
【第2回】6月11日（土）「宿院仏師—奈良の仏像作家—」 鈴木喜博
【第3回】7月 9日（土）「吉野をめぐる人々」 野尻 忠
【第4回】8月 6日（土）「南都絵所—奈良の絵画工房—」 谷口耕生
【第5回】9月10日（土）「唐物趣味」 清水 健
【第6回】10月 8日（土）「大乘院跡・元興寺（現地見学）」
*当館講堂に集合 吉澤 悟・岩戸品子
【第7回】11月12日（土）「水墨画と大和絵」 中島 博
【第8回】12月10日（土）「金閣と銀閣（現地見学）」 内藤 榮
*集合場所未定

（会 場）当館講堂および展示室、または見学現地。

（時 間）午前10時～12時。

*教室修了後、当日開催中の特別展・平常展などを自由に観覧できます。

（対 象）小学校5・6年生と中学生、および保護者

*大人のみの参加はできません。

（申し込み方法）郵便またはファックスで、当館教育室まで。

*参加希望の回を明記して下さい。

*氏名・学校名・学年・参加保護者氏名・郵便番号・住所・電話番号・ファックス番号を明記して下さい。

●列品解説●

「曙光の時代—ドイツで開催した日本考古展—」

- 3月26日（土）「旧石器時代・縄文時代」 吉澤悟（当館研究員）
4月 9日（土）「弥生時代」 吉澤悟（当館研究員）
4月23日（土）「古墳時代」 岩戸品子（当館研究員）
5月 7日（土）「飛鳥・奈良時代」 岩戸品子（当館研究員）

※時間：13:30～（3月26日のみ10:30～）
会場：当館講堂（開講30分前より整理券配布） 定員：200名

●ギャラリー・トーク●

- 4月13日（水）「西安宝慶寺の石仏」（本館第6室） 稲本泰生（企画室長）
5月11日（水）「国東塔を中心に」（西新館南庭園） 内藤 榮（工芸考古室長）
6月 8日（水）「九品来迎図」（西新館北西展示室） 中島博（教育室長）

※時間：14:00～ 入館者は聴講自由

奈良国立博物館賛助会員の募集について

奈良国立博物館では、当館の諸活動を幅広くご支援・ご支持いただける方々を対象として、賛助会員制度を設け会員を募集しております。いただきました会費は、平常展、教育普及事業、調査研究、出版事業、施設整備等の充実及び文化財の購入・修理に充てさせていただきますこととしております。どうか賛助会員の趣旨にご理解ご賛同いただき、ご入会くださいますようお願い申し上げます。

入会日より1年（入会月の翌年同月末日まで）有効

賛助会員には、特別賛助会員と賛助会員との二種類があります。

年会費 特別賛助会員 50万円以上

賛助会員 個人 5万円 団体 20万円

- 特典 ①当館の全ての展覧会を何回でも無料でご観覧いただけます。
②特別展・共催展の特別鑑賞会にご招待。
③当館すべての図録を各1部贈呈。（展覧会により作成しない場合がありますので、ご了承ください。）
④「奈良国立博物館だより」（季刊）1部をお送りします。

*賛助会員のお申し込みは随時受け付けております。

*ご希望の方には賛助会員募集のご案内をお送りします。

*問い合わせ 当館 総務課 賛助会員担当 0742-22-7771（代）

奈良国立博物館賛助会員（2005年3月14日現在）

◆特別賛助会員 読売新聞大阪本社事業局 様

◆賛助会員（個人）

石坂登三子ジャメンツ 様
稲田和子 様
ジャメンツ マイケル 様
畑中利久 様
山本充範 様

◆賛助会員（団体）

奈良国立博物館 結の会 様
日本通運株式会社
関西美術品支店 様

●展覧会日程●

	4 月	5 月	6 月
本 館	平常展（彫刻）・（中国古代青銅器）		
東 新 館	特別陳列 宿院仏師—戦国時代の奈良仏師—（5/28～7/10）		
西 新 館	平常展（絵画・書跡・工芸・考古）（5/21～）		

展示品の 見どころ

じょ し じん ぶつ はにわ 女子人物埴輪

古墳時代後期
綿貫観音山古墳(群馬県高崎市)
文化庁所蔵
重要文化財 高101.0cm

人物埴輪には、武人や捧げ物をもつ女子、跪く男子など様々な姿態があり、それらは首長権を継承する儀礼の場面を表現したものと解釈されている。綿貫観音山古墳の石室前には三人の女子が並んで坐る埴輪や、鍔付きの帽子をかぶり、あぐらをかいて坐る男子像、甲冑武人、農夫、盾持人など多彩な人物埴輪が並べられていた。写真の女子人物埴輪は、うやうやしく両手を顔の前に上げており、対置



する首長に何かを捧げる姿を表現したものである。祭式を執り行う巫女と推測され、鋸歯文で飾られた上衣に縦縞の裳(スカート)を着用している。なお、今回はこれに対置する首長相当の男子像と、三人の女子が並んで坐る埴輪もセットで出品され、埴輪群像による儀礼場面が再現される。

か えん がた ど き 火焰型土器

縄文時代中期
馬高遺跡(新潟県長岡市)
長岡市立科学博物館所蔵
重要文化財 高29.5cm



東日本の縄文時代中期は、各地方ごとに個性的な土器がみられ、その広がりは当時の人々の交流や活動範囲を反映したものと考えられている。火焰型土器はその中でも非常に特徴的な土器で、新潟県域を中心に北は秋田県から西は富山県まで、日本海側を縦断するように分布している。胴部は筒状、頸部を外側に大きく開き、口縁部は内湾するという形態で、口唇部に炎もしくは動物をデフォルメしたとも言われる鶏頭冠把手が四か所、付けられている。内面に炭化物が付着していることから、実際に煮炊きに使用されたものと考えられている。

※特別展「曙光の時代—ドイツで開催した日本考古展—」は、3/23～5/8に開催。

夏季講座のお知らせ

◆テーマ◆
「古 密 教」

◆日 程◆
8月23日(火)～25日(木)

(会 場) 奈良国立博物館 講堂

*現地見学も行う予定ですが、場所は未定です。

(定 員) 200名

*応募多数の場合は、抽選により決定します。

*奈良国立博物館友の会カードをお持ちの方は優先的に受け付けます。

(会 費) 未定

*講座内容の詳細や応募方法については、今後、次の奈良国立博物館だより54号、および当館ホームページにてご案内いたします。

<http://www.narahaku.go.jp/>

開館予定(4月～6月)

■開館時間 9時30分～17時
(ただし4月29日以降の金曜日は19時まで)
※いずれも入館は閉館の30分前まで

■休 館 日 月曜日(ただし5月2日は開館します)

■観覧料金

特別展 曙光の時代—ドイツで開催した日本考古展—

	大 人	大学・高校生	中学・小学生
当 日	1,000円	700円	400円
前 売	900円	600円	300円
団 体			

平常展・特別陳列

	大 人	大学・高校生	中学生以下
一 般	420円	130円	無料
団 体	210円	70円	

*団体は責任者が引率する20名以上。



(交通案内) 近鉄奈良駅から徒歩15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅からバスで「氷室神社・国立博物館」下車すぐ

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒(90円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館の情報サービス室にお申し込みください。

 **奈良国立博物館**
Nara National Museum

〒630-8213 奈良市登大路町50(奈良公園内) TEL. 0742-22-7771 FAX. 0742-22-7221 テレホン・サービス 0742-22-3331 ホームページ(URL) <http://www.narahaku.go.jp/>